

# 第 38 号

発行 世田谷区町会総連合会  
世田谷区若林 4-31-9  
ポライト第2ビル202  
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 宇田川 國 一  
編集 情報誌編集委員会  
編集委員長 堀 池 有

# せたがや 町総連だより

あけましておめでとうございます



お健やかに初春を迎えのこととお慶び申し上げます。平素は世

田谷区町会総連合会に特段のご支援、ご協力を賜り誠に有難うございます。

後藤前会長の後任として、会長を仰せつかりました宇田川國一と申します。よろしくご指導の程お願い致します。

世田谷区は八十八万の人口をようし、五つの総合支所のもとで、世田谷区町総連も同じ行動



町会・自治会の皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は区政の推進にあたり、多大なるご理解、ご協力をいただきました。誠にありがとうございます。

昨年、世田谷区では、二十年後の将来を展望する「新たな基本構想」を策定いたしました。先人から受け継いだ世田谷のみずとみどりに恵まれた住環境

世田谷区町会総連合会 会長

宇田川 國 一

をしております。世田谷地域は八万世帯で北沢地域は六万三千世帯、玉川地域は五万二千世帯、砧地域は三万三千世帯で、鳥山地域は二万四千世帯ですがそれぞれ地域差があります。

鳥山・砧地域はまだまだ緑も多く、発展する街です。玉川地域はその中間でしょうか、北沢・世田谷地域は、もう緑を殖やす事は出来そうにありません。それぞれの単位町会も自立・自主性を尊重し、発展していかなければなりません。

世田谷は住み良い街と言う評判が高く、また住民は増えるや、多様性を尊重してゆるやかに共存する文化・地域性を、子どもたちに引き継いでいくため、町会・自治会の皆様と共に、未来への新たな一歩を歩んでまいりたいと考えております。

世田谷区長

保坂 展 人

東日本大震災を経て、日頃からの災害対策はもとより「人と人とのつながり」、「地域の絆づくり」が大切であることが改めて認識されております。地域コミュニティの要である町会・自治会を中心に、多くの区民が地域の活動に参加され、防犯・防災や地域福祉、地域振興等の活動がより活発になることが、

個性豊かで活力に満ちた地域社会づくりにつながるものと考えております。

町会・自治会は、区政運営の最も重要なパートナーです。本年も引き続き、区政へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、世田谷区町会総連合会の益々のご発展と、会員の皆様にとりまして健康で幸多き一年になりますことを心からお祈り申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

## 目 次

新年のご挨拶	1
地域情報	
砧 地 域	石井戸の今昔と町会活動 ..... 2
鳥 山 地 域	給田町会の紹介 ..... 3
世田谷地域	地域の絆を大切に ..... 4
北 沢 地 域	自分の身は自分で守る ..... 6
世田谷地域	町会は地道な活動の積み重ね ..... 6

町総連ニュース	8
編集後記	8

※QRコード



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。

砧地区

地域情報

# 石井戸の今昔と町会活動

石井戸会 会長 八木 孝 夫

石井戸会の所在地である大蔵地区は世田谷区の南西部に位置する砧公園から西側に下ったところだ。世田谷区の中でも特に水と緑が多く、自然が残っている地域で、世田谷区は自然資産である国分寺崖線沿いには湧水があり、水生生物が生息し、憩いの場になっています。この国分寺崖線は、太古の昔、多摩川がこのあたりを流れて段丘を作った名残とされています。この国分寺崖線と並行して仙川が流れています。数十年前までは仙川一帯は畑と水田で、川の水と親しむことができ、水車が生活の中で大切な役割を果たしていました。昭和二十年代までは八つの水車があり、商売用と、土地の人たちが家族で食べるために精米や精麦に使う共同水車が二基あった

このことです。しかし、現在の仙川は深く掘り下げられて護岸工事がなされ、昔の面影がなくなっています。また、おかげで川が氾濫することはなくなりました。夕方にはコウモリの群れが崖線から仙川の上空を上下左右に不規則に飛び交います。崖線の林の樹に洞（ほら）があり、それをねぐらにしているようです。

あり、防災用の井戸水を供給してもらえるところです。その一方、世田谷区内で公共交通機関から最も離れており、また商店街や大型店も同様に遠く、この点は昔の農村時代の名残と思われまふ。石井戸会は加入世帯数が五百世帯以上（アパート含む）で、先祖代々続く古い家が多く、家によつては、数百年続いているといわれています。同じ名字の世帯が何軒もあり、名字よりも名前で呼ぶ場合がよくあります。

このように石井戸とは水と緑に恵まれた美しい部落であることを意味し、昔から豊富な水で潤う生活を代々続けてきていますが、さらに「大蔵の名水青病を治す」という故事があります。大蔵村石井戸の湧水を飲むと、不治の青病という病気が治ったといわれています。現在でも、自宅の敷地に湧水が出る家が何軒か

江戸名所図絵によると、鎌倉時代の仁治（にんじ）元年（一二四〇年）、石井戸見守兼周が幕府より賜って移り住んだ武州石井郷は、江戸時代の明暦（めいりゃく）一（一六五五）一六五八年の頃、大蔵邑とともに多摩

郡の内に加えられ、今は大蔵邑に属することになったとあります。（故 石井清さんの調べ）  
現在、町会加入率は九割以上となっています。安全で明るい町並みと住民どうしの良好な関係を目指し、役員・区長が力を合わせ、一年を通じて町会活動をさまざまに展開しています。特に、交通安全・防火・防災、防犯活動・清掃活動に日頃力を入れており、一般町会員が多数参加しています。

環境をテーマにした大蔵運動公園での緑化まつりがあります。今年度で二十八回目を迎え、すっかり年中行事に定着していますが、石井戸会は毎年岡本自治会等とともに餅作りを担当しています。朝から昼過ぎまで約千パックの餡やきな粉餅を作ります。その他、主な行事に古着古布回収・青色パトカーによる砧地区の巡回、大蔵第二運動場夏祭り（ポップコーンの製造・販売）、砧ラリー（豚汁の大鍋調理）等があり、水と火により企画しています。



大蔵石井戸囃子保存会



石井戸祭での石井戸囃子

また、砧小学校との合同行事もあります。七月の夏休み前に行われる「砧っ子夏祭り」では、他近隣町会とともに砧小学校校庭に模

烏山地域

# 給田町会の紹介

給田町会 会長 穴戸安夫

給田は世田谷区の西北端で、京王線の千歳烏山、仙川間に位置し、調布市、三鷹市に隣接しています。東西約1km、南北約2kmとやや細長く東西に国道二〇号線、旧甲州街道、京王線、西北から南東にかけて流れる仙川に分断されていますが、町内活動は分断されず結束しています。近年は鉄骨又は鉄筋コンクリート造のマンションも増えました

が、まだところどころ畑も残り僅かばかり武蔵野の面影も残っております。いわゆる商店街も無く、殆どが住宅地域となっております。給田の地名は中世の荘園時代に領主から管理を命ぜられた人がその手当として受け取る田畑を意味する言葉から村の名前に転化したものと言われております。甲州街道に面しているた

め、内藤新宿から三里にあたる新一里塚も町内にあったようです。一九六四年の東京オリリンピックでは、聖火が調布から給田までの二・三km、給田から三鷹までの一・一kmを甲州街道、吉祥寺通りと世田谷区内で唯一給田町を走りました。人口は約六千世帯、一万二千人あまり、町会加入世帯はほとんどが戸建て居住

者で残念ながら千三百世帯にすぎません。町内の範囲内には他に、給田北住宅、南住宅、西住宅にそれぞれ自治会があり、独自の活動を行っております。給田町会では町会長以下十一の部門の副会長、部長が各一名で常任理事会を構成し、回覧担当役員十八名、一〇五丁目で一二六組の原則毎年交代の組長をおりて、日常活動を支えております。町内の主な活動組織としてはお年寄りの集まりである福寿会（会員数約一六〇名）、青壮年の集まりである青穂会（会員数約五〇



第63回給田町運動会  
第63回給田町運動会

名）、婦人部、成城消防署第四分団、交通部がそれぞれ独自の活動や連携した活動を行っております。町内には区立の保育園

擬店を出し、ポップコーン作りを担当して、子供に無料配ります。また、十一月下旬に実施される「避難所運営訓練」では近隣町会とともに避難所運営本部を立ち上げ、消防署の協力・支援のもとにさまざまな訓練を行います。年々参加者が増えていますが、これからも地域の方に大勢参加してもらえよう周知を行いたいと思います。石井戸会独自の活動とし

ては、七月末の盆踊り大会や敬老の日の記念品贈呈（七十歳以上）、御囃子保存会のような文化活動、六月の町内清掃活動、日常的な防犯パトロールや妙法寺での放水訓練があります。納涼盆踊り大会は毎年公会堂前の広場に櫓を組み、夕方から夜九時まで三百人以上が集まって踊ったり、見物したりして夏の宵を楽しみます。CDのメロデーに合わせて大蔵石

井戸囃子保存会が櫓の上で太鼓演奏を行い、日頃の練習の成果を發揮して軽快なばちさばきを披露します。また、九月末には、秋の石井戸祭があり、喜多見氷川神社の神主さんをお呼びして公会堂前の広場で神事を執り行い、その後、他町会の青年の応援も得て、町内を御神輿が巡行します。なお、大蔵石井戸囃子保存会は、昭和三十六年八月に発足し、御囃子と獅子舞の保

存活動において五十年の歴史を誇ります。そして、春・秋の二回、交通安全運動週間に仙川沿いにある石井戸公園前でテントを設営し、町会役員や砧小学校・砧南中学校のPTA校外委員の方が車両の通行監視を行います。また、妙法寺では、砧小学校児童を呼んで春の交通安全祈願祭や、二月の二の午（うま）祭りで五穀豊穡を祈る儀式を行います。

なお、石井戸を挟んで西の野川沿いに東京外郭環状道路、東の仙川沿いには都道二一六号の計画があり、今後十年間で二つの道路に挟まれながら、町並みが相当変化すると予想されます。その動きに流されることなく、石井戸らしさを守っていきたいと思います。



給田町運動会

が一、区立と私立の幼稚園が各一、区立の小学校は烏山、給田の二校、中学校は無く、隣接する烏山中学と上祖師谷中学にお世話になっております。他に佼成学園女子中学高等学校があります。集会所としては給田地区会館があります。六所神社の社務所には総会、常任理事会、運動会

準備等で大変お世話になっております。特別養護老人ホームは二ヶ所あります。年中事業で最大のものは毎年体育の日に実施する運動会があります。平成二十五年には六十三回目を無事終了できました。六十三回と言えは戦後間もない昭和二十五年くらいからスタートしたことになり、人口も少ない中、先人達の並々ならぬ熱意と努力には頭が下がります。当初は岩佐学園(現佼成学園)のグラウンドをお借りしてやったとのこと。岩佐学園での第一回給田町会大運動会は、警視庁のブラスバンドが演奏に来てくれたと聞いております。最近烏山、給田両小学校の校長先生はじめ先生方のご理解、ご協力をいただき、交

互にグラウンド、用具も一部お借りして実施しております。子供達が家族や、先生方とも競技を楽しめて喜んでくれています。ここでは青穂会の皆様が大活躍ですが、町会内に寮のある国士館大学の柔道部の皆さんにもお手伝いしていただいております。次に賑やかなのは六所神社の秋の大祭と盆踊りがあります。氏子と青穂会が主体で行われますが絆の時代に欠かせない行事の一つとなっています。六所神社には運動会用の競技用具、テントの他、非常時の備品も倉庫で保管してもらいお世話になっております。なお六所神社は十六世紀の中頃府中の大國魂神社の分霊として祀られたと伝えられております。



みんな仲良く盆踊り

夏休みには一流の落語



第15回子供落語会

よび活動概要についてのご報告とさせていただきますが、高齢化、小家族化が進む中で引き続き、会員増の努力をすると共に全住民の絆を深める努力をして参ります。

世田谷地域

地域の絆を大切に

弦巻町会 副会長 鮎川郁男

「隣は何をする人ぞ」他人との係わりを避ける人が

多くなっている今日、三年前の東日本大震災をきつ

けにして地域のつながりの大切さを考える人々が増え

て来たことはとてもうれしいことです。

町会のもつ機能として、支え合い助け合っていく地域のつながり・絆を深めていくという事があり大切な仕事です。当町会の地

域には約二万世帯ほどの人が住んでおりますが、そのうちの約五千世帯の方が町会員になっております。できるだけ多くの方々に会員になってほしいと思います、町会長を始めとして役員・理事

等が未会員に働きかけています。会員を増やすには掛け声だけでは増えません。地域の人々がふれ合う機会を多く作ることです。そこで弦巻町会では、一年間を見通して色々な行事を計画し、多くの方々に参加していただく努力をしています。

三月末には、歩こう会が行われます。これは避難場所の確認を兼ねていますが、ちょうど花見の時期になりますので、多くの方が参加してくれます。幼児から高齢の方まで幅広い参加になります。半日行程ですが、参加者にはお弁当が配布され楽しみながらの活動です。教育センターから馬事公苑に行き最終目的地の砧緑地までほとんどの



歩こう会

方が行きます。昨年は雨天のために中止になりましたが、今年は必ず実施できることを願っています。

五月末には、総会が行われます。バス日帰り旅行を兼ねて、近くの温泉地で開催されます。約百名ほどの参加者があり、総会後のカラオケや温泉の入浴を楽しみに参加されます。

七月末には、三丁目東公園で盆踊り大会が実施されます。月の最後の土日の二日間を使って花火遊びやヨーヨーつり、スーパールールすくいなどがあり、小さいお子さんを連れた若い夫婦が多く参加してきます。三百名ほどの参加者があり、このような機会に、町会の在り方などを知らせ、会員になっていただくように働きかけています。

九月末には敬老会が行われます。今年度で五十六回目を迎えました。町会全体では七十五歳以上の高齢者が二千名ほどいらっしゃいますが、個人情報関係で申し込み制を取っていますので昨年は千名ほどの方に招待状を差し上げました。歩いて会場に行くのが辛い、旅行に出掛けているの

で参加出来ない、私のところは結構です等の理由で半数程度の参加になってしまいました。出来るだけ多くの方に参加していただくように努力しています。

十一月には、松丘小の校庭をお借りしての「祭りピックアップ」が行われます。これは地域の運動会で、幼児から高齢者までとても多くの方々の参加があり、地域のふれ合いに役立っています。松丘小のPTAの方々と同窓会の方々の共催ですが、昔を思い出しての数多くの種目、パン食い競争や借り物競争等がありとても楽しんでいます。年内最後の行事ですので約五百名ほどの方が集まってくれます。

その他に専門部会ごとに、一日研修会を実施しています。バスをチャーターして色々な施設を見学し、参加者の見聞を広めると同時に他の町会員に見学内容を知らせています

文化部会は五月に、防災部会は十月に、環境部会が十一月に行われます。各部会への参加者は、五十名ほどですが、それぞれの活動に役立っています。

もう一つの町会の大きな

仕事として安全・安心な生活を営むための防犯活動や防災訓練等もあります。町内にある三校の合同避難訓練に合わせて町会でも、独自の訓練に取り組んでいます。児童・生徒の避難訓練が終わった後の、防災訓練には特に力をいれています。避難所での受け入れ態勢や簡易トイレの設置のしかたや炊き出しの方法など年一回ですが多くの方の参加を得ています。また区民消防隊という組織を作り活動をしています。町会員十名ほどと松丘小のPTAの方々が参加して、毎月一回定期的に訓練を実施しています。

「安全・安心な生活」は区の大きな目標です。弦巻町会でもこの目標の達成

にに向けて努力をしています。このように実践を通してふれ合い・絆を深めるようにして行くことが大切かと考え、我が町会活動の一年間を述べさせていただきます。

盆踊り大会での出店



盆踊り大会での出店

盆踊り大会での出店

にに向けて努力をしています。このように実践を通してふれ合い・絆を深めるようにして行くことが大切かと考え、我が町会活動の一年間を述べさせていただきます。

北沢地域

## 自分の身は自分で守る

松原三・四丁目自治会 副会長 防災部長 上保 馨

今年度の松原三・四丁目自治会の防災訓練は、去る十月二十七日(日)に行われました。

何時起こるか分からない「首都圏直下型大地震から自分や家族の命を守る」ための訓練です。自治会では、回覧と掲示板などで、ご家族・ご近所にも声を掛けて多くの参加者を募りました。

今回の防災訓練は、例年のような見学型ではなく、発災対応型訓練を行いました。災害発生時「自分たちの町は自分たちで守る」との意識を高めるための実践訓練ですので、自治会役員も参加者も最初は少し戸惑いましたが、時間が経つにつれ慣れてきました。

最初の起震車訓練では、親子連れの方、家族四人組の方など起震車の震度六く七の運転で机の下に身をかがめながら良い体験をしました。この訓練には、光明特別

支援学校の方が五組ほど一緒に参加しました。

私は、家族の方たちが起震車の机の下にもぐり震度にもめげず一生懸命に「自分の身は自分で守る」ことを子供さんに教えている姿を見て、感動するとともに多くの人が体験することの必要性をあらためて認識しました。

車椅子や消火器訓練では、特にお年寄りが大勢参加され、ご主人が奥様を庇うように訓練している様子は、高齢化社会の一面を垣間見た思いでした。

訓練は、救助訓練、搬送訓練、スタンドパイプ訓練等多岐にわたりました。

また、応急救護訓練では、AEDの取扱いについて子供たちを含め参加者全員が習得しました。

訓練の最後には、地域消防隊によるD型ポンプ放水、消防団による消防ポンプ放水がありました。

今年度の訓練は、前日が台風の影響で翌日に延びましたが、晴天に恵まれ参加者も多く、全員が一生懸命に訓練に参加して、無事に終わることができ、自治会として感謝しているところです。

次回も区を始め関係部署のご指導、ご協力のもと実施する所存です。

なお、自治会では、災害時に於ける自助・共助の重要性を認識できることを目的として、十一月三日には「わくわくキッズフェスタ」を開催しました。



自治会所有の防犯パトカー

自治会の防犯パトロールカーによる巡回、ふれあい動物園を開設、梅ちゃん飛び出す3D紙芝居、自分だけの缶バッジをつくらう、子ども衣類交換会、松沢児童館の指導による着ぐるみじゃんけん・バッタづくり等のコーナーを設け、老若男女多くの方が参加した住民相互の親睦を図りました。

玉川地域

## 町会は地道な活動の積み重ね

玉川田園調布会 会長 中山 恒雄

玉川田園調布は、世田谷区の南東部にあり、大田区に接した一〇〇〇世帯

強・二二〇〇人を超える人が居住する住宅地域です。町会は、加入率約六〇%位

で会員数は比較的小規模な会です。

ほぼ中央部に区立八幡小学校があり、多数の卒業生の母校であると共に、震災時の避難所の役割を担ったり、種々の地域行事の会場として、地区の中核的存在となっております。

### 「町会の歩み」

先輩たちの記録を振り返ってみると、町会の前身は、大正十一年、地域の住宅地整備が開始された時に組織された自治会で、昭和七年の市制改革で世田谷区に位置することになった部分に分離独立して「玉川田園調布会」となりました。

以来地域に住む人たちの親睦融和と文化教養の向上をはかり、同時に健康快適な環境の保持と、地域の安全・福祉などにつとめてきています。

戦前・戦後の混乱を経過、一時は解散を余儀なくされましたが、有志による組織維持にも支えられ昭和二十五年町会が再開しました。当初は、防犯・防火のための街路灯の設置・維持管理などが主体であったようです。

町会運営上でも、いろいろ



防火・防災訓練

るな面で遭遇する団体としての体制作りも課題となりましたが、平成三年の法改正もあり、同七年「地縁団体」としての認可（法人格）も得ました。

### 「町会の活動」

発足当初から続く、会員相互の活動、地域の団体・組織などと協力した活動に加え、その時々におこる地域の課題へも取り組みが行われています。

#### ・ 住環境対策

いわゆるバブル崩壊後の住環境の急速な変化があります。宅地開発での緑の減少、建て詰めによる災害時の危険性の増大、日照・通風の問題など危惧される事態がおこる中、街づくりの検討が

重ねられ、関連協議会も発足、区との「地区まちづくり協定」も締結されました。

現在も、地道に環境維持の活動が継続されています。

#### ・ 防犯活動

平成十二年頃は、空巣・ひったくり・強盗等が増加傾向にありました。同十六年「防犯パトロール隊」が発足。巡回は、隊員の都合の良い時間帯に実施されます。

毎月の巡回報告の集計結果と警察署の犯罪発生情報や予想される注意点なども加えられた報告が、隊員に活用できる形で翌月に提供されます。地域内の巡回が手薄な場所や空白時間帯が少なくなるよう、取りまとめリーダーが企画・立案してもらえたユニークな方式で、成果をあげています。

また、近年の状況の変化に合わせて、逐次、次のステップへの移行も検討されており、展開されています。

#### ・ 防災対策

平成七年に発生した阪神淡路大震災、また記憶

に新しい同二十三年の東日本大震災の被災状況は、直接的な被害の殆んど無かった我々に、従来の防災に対する意識・計画を見直す機会が与えられたものと強く認識させられました。とはいえ、住宅地という環境から、働き手の大部分が昼間は不在で、また在宅者はどちらかといえば高齢の人や、一人暮らしの人も多く、防災計画を立てる際は、この点を考慮に入れなければならぬ状況です。

町会としても、特に留意を要すると考えている火災の発生に対して、消防ポンプ隊の編成・毎月の機器点検・放水訓練、



P T A と共催、夏休みラジオ体操

スタンドパイプの配置、街路消火器・消火栓・貯水槽の確認等々、防災担当チームが中心となって取組んでいます。

毎年行われる避難所運営訓練なども含め「誰かがやってくれる」から、「少しでも、できることを、皆で分担してやる」ことへ向かおうとしています。

これらの活動は、防災意識の喚起・向上と訓練・講習等への参加経験のある人を少しずつでも増やしていくことで、深刻な被害を少しでも減らしていけると考えています。

また、これらは町会の全ての活動に共通するものと考えています。

# 町総連ニュース

## 総会

▼平成25年6月27日

## 第35回

ふるさと区民まつり

▼平成25年8月3日～4日

町会・自治会加入促進ポスターを掲示し、加入チラシやグッズの配布等PRを行った。

## 正副会長会

▼平成25年9月5日

1 ハーフマラソンの実施概要について

2 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び地域社会の活性化を進める条例の素案について

3 町総連の加入促進の取組について(たたき台)

▼平成25年12月19日

1 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び地域社会の活性化を進める条例素案に対するパブリックコメントの概要及び今後の対応について

▼平成25年9月5日

2 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び地域社会の活性化を進める条例素案に対するパブリックコメントの実施概要について

▼平成25年12月19日

1 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び地域社会の活性化を進める条例素案に対するパブリックコメントの概要及び今後の対応について

## 常任理事会

▼平成25年9月5日

1 ハーフマラソンの実施概要について

2 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び

地域社会の活性化を進める条例の素案について

▼平成25年11月1日

1 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び地域社会の活性化を進める条例(素案)について

▼平成25年12月19日

1 (仮称)世田谷区町会・自治会への加入促進及び地域社会の活性化を進める条例素案に対するパブリックコメントの概要及び今後の対応について

## 情報誌編集委員会

▼平成25年10月11日

町総連だより第38号の編集方針等

▼平成25年11月21日

町総連だより、原稿の確認読み合わせ

▼平成25年12月19日

町総連だより、原稿の校正等

## 表彰

▼平成25年10月1日

東京都功労者表彰  
東京都庁において、藤本秀雄町総連副会長(鎌田南睦会会長)が東京都功労者表彰を受けました。

▼平成26年度総会(予定)

▼平成26年6月26日

平成26年度総会(予定)  
平成26年6月26日

## ◎世田谷区町会連合会役員改選のお知らせ

平成25年6月27日に開催された総会で、役員改選案が承認され、役員が改選されました。

役職	新役員	前役員
会長	宇田川國一	後藤 正三
副会長	後藤 正三・斎藤 重男 藤本 秀雄・杉田 武信	宇田川國一・斎藤 重男 藤本 秀雄・長島 清一
会計	鈴木 賢治・原田 隆明	加納 好昭・原田 隆明
監事	笹岡 正・橋本 武昭 甲斐円治郎	笹岡 正・駒井 澄子 甲斐円治郎

## ◎町会長交替のおしらせ

平成25年12月現在

地域	町会・自治会名	新会長	前会長
玉川	馬事公苑前ハイム管理組合	鈴木 伸一	三島 紘一
烏山	都営烏山アパート自治会	荒井 文好	岸田 シマ

## ◎町総連情報誌編集委員会名簿

平成25年12月現在

役職	氏名	所属
会長	宇田川 國一	上馬北部町会会長
委員長	堀池 有	桜上水一丁目町会会長
副委員長	堀江 義之	若林町会総務部長
委員	横山 昭夫	九品仏自治会会長
委員	鮎川 郁男	弦巻町会副会長
委員	飯塚 捷子	豪徳寺二丁目町会会長
委員	吉岡 靖之	藤自治会会長
委員	汐見 敏治	砧町会会長
委員	本橋 俊夫	粕谷会会長
委員	高橋 和夫	烏山下町会会長

## 編集後記

情報誌編集第38号の校正を終えて、編集委員は世田谷区内地域町会から提出された原稿の文字の誤りや不備を調べ、校正刷りに出すのが役割です。

毎号内容については町の名称の成り立ちや町内活動の様子を中心とした原稿を出稿して頂いております。

町内活動については社会状況の必然性から防火・防災・防犯のことに又ふれ合い・知り合い・助け合いの精神から祭りごとについての原稿内容となりがちであります。これからは何か情報の方向を変えて行ければと思う次第です。

編集委員 本橋 俊夫

## お詫びと訂正

第37号の「最近の中和会の活動から」の記事中「約六十年前」との記述は「四十七年前」の誤りでした。

お詫びして、訂正いたします。